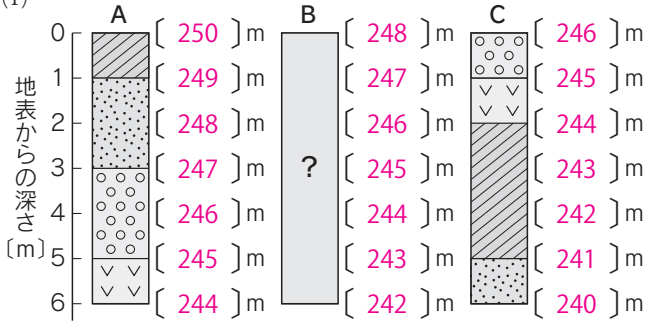
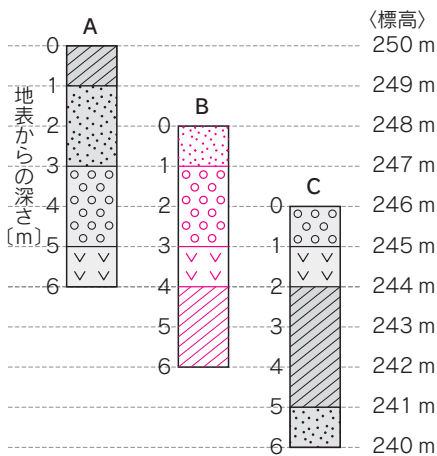


《解答》

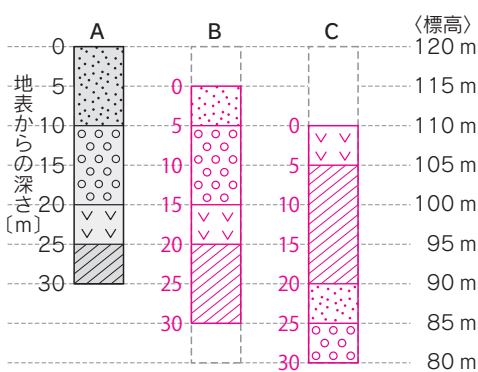
1 (1)



(2)



2 (1)



- (2) ① 同じ。  
 ② 傾いていない。  
 ③ ちがう。  
 ④ 傾いている。  
 (3) 北  
 (4) ① 砂岩  
 ② 5m  
 (5) 泥岩

《解説》

1

- (1) 地表からの深さが1mずつ深くなると、標高も1mずつ低くなります。  
 (2) AとCの柱状図からBの柱状図を考えます。傾きのない地層なので、同じ標高では同じ層が堆積しています。標高に合わせて並べると、Bの地下のようすを推定することができます。

2

- (1) 標高にあわせてB、Cの柱状図をかきます。Bの地点は標高が115mなので、標高が115mの線から柱状図をかきます。Cの地点は標高が110mなので、標高が110mの線から柱状図をかきます。  
 (2) (1)の柱状図から、Aの地点とBの地点では、凝灰岩の層が同じ標高にあることがわかります。Bの地点とCの地点では、凝灰岩の層がちがう標高にあることがわかります。このことから、地層はA-Bの方向には傾いておらず、B-Cの方向に傾いていることがわかります。  
 (3) B、C地点の柱状図を比べると、凝灰岩の層はBの地点のほうが低い標高にあります。このことから、南から北に向かって低くなっていることがわかります。  
 (4) Cの地点の柱状図から、泥岩の層の下には砂岩の層が、5mの厚さで堆積していることがわかります。  
 (5) Aの地点の地表から深さが38mの層は、標高85~80mにあたります。地層の傾きを考えると、Cの地点の柱状図では標高95~90mにあたるので、泥岩の層であることがわかります。